

ネタニヤフ氏とオバマ氏

2011年5月22日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

マティ・ショシャニとアシェル・イントレーター

ネタニヤフ首相は一週間の公式訪問のため、金曜日にワシントン DC に到着しました。オバマ大統領はネタニヤフ首相と一対一で、1時間半ほど会談しました。会談は厳しいものだと言われており、彼らの身振りや報道陣に対する声明を通して、二人の指導者の間に不快感があったことが明らかとなりました。

ネタニヤフ氏の月曜日のスピーチで、彼は将来の合意に関し、1948年の国境線を基に、防衛可能な国境線に関していくつかの条件を設けること、すなわちヨルダン渓谷の支配とパレスチナ国家の中にユダヤ人入植地の一群を設けることで、イスラエルは部分的に同意すると述べました。

オバマ大統領は木曜日、彼のスピーチの中で、1967年の時の国境が将来のパレスチナ国家の国境とすべきであると述べました。

オバマ氏のスピーチは国際社会において、イスラエルとパレスチナ両者に対する要求は強引であると捉えられました。これにより多くの者が、アメリカの外交政策がより「強硬な外交」へと傾斜することを含み、変化があったと判断しました。ネタニヤフ氏とオバマ氏は両者共 2012年に選挙を控えており、両者共9月に起こるであろうパレスチナ人の一方的な独立宣言に対する準備を整えています。

興味深いことに、「グリーン・ライン(注)」ぞいに国境を設けるパレスチナ国家という概念は、前のイスラエル政府は受け入れてきました。かつて2000年のキャンプ・デビッド合意時にエフード・バラク首相によって、そして再び2003年の「和平ロードマップ」時にアメリカ大統領であったジョージ・W・ブッシュ氏が設定したガイドラインにアリエル・シャロン首相が合意したのです。これらの計画はパレスチナ指導部によって却下されました。両者共、西岸地区の大部分(95%以上)はパレスチナ人に与えられるであろうと、そして余剰部分は土地の交換によって与えられるだろうと明確に述べてきたのです。

注: グリーンライン: イスラエル本土とパレスチナ暫定自治区を分ける国境線。

オバマ氏の中東に関するスピーチは説得力があり、魅力的であり、理想的でした。入植地の交換とパレスチナ地区内における武装解除を伴う1967年の国境線を基とする和平プランの理想は、大半のイスラエル人にとって好ましいものでした。ただし、大きな問題があり、それはオバマ氏がスピーチ内で述べた小さな3つの問題、すなわちハマス、エルサレム、そして避難民があるということです。

ハマスは孤立しているのではなく、ムスリム兄弟団、アル・ワハビ、アルカイダ、タリバン、ヒズボラ、イランのアヤトラ主義者ら等、国際的な聖戦集団の一部です。これは決して小さな反抗的な団体ではなく、殺人的な過激派であり、イスラエルの国境と近く接する数百万、数千万の人々に大きな影響を与えるのです。

エルサレムはベルリンのような再統合可能な街ではありません。問題はクリスチャン、ユダヤ教徒、そしてイスラム教徒にとって聖なる神殿の丘を中心とする数平方キロメートル四方にあります。宗教的信条の衝突はこの紛争の中心であり、回避できないのです。

1948 年から残存する避難民の数は少ないのですが、彼らの子孫と親類縁者はさらに多いのです。さらに大きな問題はこの数百万のさらに百倍という人口のアラブ人とイスラム教徒が 6 百万のユダヤ人がいる小さなユダヤ人国家を取り囲んでいるのです。この人口は巨大な問題であり、イスラエル国家そのものの存亡を脅かすものなのです。

1967 年国境に関する動画

世界のメディアと政治家はイスラエルに 1967 年の国境線に戻れと呼びかけています。以下、図面で説明する危険性について、このシンプルな動画をご覧ください。

<http://www.youtube.com/user/shaharclips#p/a/u/0/k2hZ6SISgq0>

フォックス・ニュースのクレン・ベック

クレン・ベックの、道徳的勇気とイスラエルと共に立つように呼びかける映像をご覧ください。ルツとデイトリッヒ・ボンヘッファーの本から引用しています。

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&hl=en&v=K7153ro5qVc

ペンテコステの祈り

私たちは 6 月 7 日～8 日の夜を徹する祈り（イスラエル時間：午後 10 時～午前 10 時）を継続して準備をしています。私たちは終わりの時の大いなる聖霊の注ぎを神は約束して下さいました。それは最後の宣教の大いなる波をもたらし、イエシュア（イエス）の再臨へと至るのです。使徒 2:17 - 21 『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの

霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。それは、血と火と立ち上る煙である。主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』

2000 年前、聖霊がペンテコステ(シャヴオット)の朝に注がれた時、弟子たちが信仰を持って期待して夜通し祈ったことは明らかです。世界的なペンテコステのために、私たちは、イスラエルにいるメシアニックジューのレムナントに導かれて同じ夜に世界的な祈りを行うべきだと信じています。それゆえに、あなたがたがどの国にお住まいであろうと、いかなる言葉をお話しようと、どうか私たちと一緒に加わって下さい。私たちは後日、祈りの見張りのためのガイドラインについて詳細説明をお送りします。

ワリッドとモサーブ

残念ながら、二人の親愛なるクリスチャンのアラブ人兄弟であるワリッド・ショウバット氏(注 1)とモサーブ・ユーセフ(注 2)との間に不一致があることが公になりました。それは、ワリッド氏が、モサーブ氏は虚偽をしたということ述べたのです。ワリッド氏の告発の一つの証拠は、モサーブがアル・ハヤット・テレビで行ったインタビューにあります。アル・ハヤットはイスラム教徒への伝道に関して恐らく世界で最も実り豊かな活動を行っている団体とされます。

アル・ハヤットの指導者たちは私と私たちのチームにとって近しい友人たちであり兄弟たちであり、そしてパートナーです。私たちは彼らにモサーブについて話しました。彼らは、モサーブは誠実なクリスチャンであり、確かにイスラエル保安部隊に所属していたと私に断言してくれました。モサーブは、自身が親イスラエルであるとは述べたことはありません。(その一方、ワリッドの信仰は非常に強い親イスラエルの立場を取っています)モサーブは、キリストの愛が、どこにあらうと殺人や憎しみを止めるよう呼びかけたと信じており、それゆえ彼はイスラエル保安部隊と共に働き、テロを阻止しようとしたのです。モサーブの証は中東全土のイスラム教徒に強いインパクトを与えました。どうか、これらの兄弟たちの間に神による和解が行われますよう、お祈り下さい。

(注 1)ワリッド・ショウバット氏:ベツレヘム生まれのアラブ人で元イスラム教徒。母がクリスチャンで元アメリカ人だったが、アラブ人の夫と結婚してからベツレヘムから出ることがゆるされず監禁状態であった。彼はかつてイスラム過激派にも属し、イスラエル国内でテロを起こしたこともある人物だったが、クリスチャンの女性を妻としたことで、妻をクリスチャンからイスラムへ改宗させようとし、聖書を熱心に研究したところ、コーランの方が間違っていると確信し、キリストの愛と十字架に打たれ、自身がイスラム教からキリスト教へと改宗する。現在夫人と共にアメリカ在住。著書 God's War on Terror など、終わりの時に関わる国々や「獣」「666」「反キリスト」を、コーランからその答えを導き出すなど、終わりの時に巨大な影響を及ぼすイスラムについて現在アメリカ全土で FBI、CIA、各有名大学や地方政府、連邦政府を含み、各地で講演活動を行っている。

(注2)モサーブ・ハッサン・ユーセフ氏:父がハマス創設者の一人であり、彼はテロリストに囲まれて育ったが、イスラム教徒同士の争いや迫害に嫌気がさしたところで、国外からのクリスチャン旅行者から聖書の勉強に誘われ、そこで新約聖書にあるキリストの献身的な愛に触れ、イスラエルの諜報機関であるシンベドに協力し、数多くのイスラム教徒によるテロを阻止し、数千人のイスラエル人を救った。現在アメリカに亡命し、活動している。その証をまとめた「Son of Hamas」の著者。

訳者注:ワリッド氏が、モサーブ氏は虚偽をしたということについて、ワリッド氏がどういうコメントをしたのか、モサーブ氏の虚偽とはどういうものか、この記事には説明がありません。そのまま翻訳しています。